

199800304A

介助犬の基礎的調査研究
— 介助犬の実態と身体障害者への応用に関する研究 —

厚生省障害保健福祉総合研究事業

介助犬の実態調査

平成 11 年 3 月

介助犬の基礎的調査研究班

介助犬の実態調査

調査対象組織

1. 多摩介助福祉犬協会
運営委員長 中島柏樹（回答者）
2. 日本パートナードッグ協会
事務局長 栗屋雅明
（栗屋雅明さんに聞き取り調査）
3. いわて介助犬をそだてる会
武田佳子
（武田佳子さんとトレーナー・新屋一巳さんに聞き取り調査）
4. サービスドッグ・ジャパン
朴木敏明（回答者）
5. ALF&MAX dogs Home（サービスドッグ・ジャパンのトレーナーが運営する組織）
白井里辺香さんと中山有美さん（両者回答者）
6. 日本介助犬トレーニングセンター
代表 足達利明
代表補佐 本岡修司（本岡修司さんに聞き取り調査）
7. 介助犬協会
代表 能條正義
（回答者：トレーナー・矢澤和枝さん）
8. 介助犬をそだてる会
代表 坂根毅彦
（回答者：坂根ゆかり）

調 査 項 目

(9 ページ)

介助犬の基礎的調査研究 - 介助犬の実態と身体障害者への応用に関する研究 -
1998年度厚生省障害保健福祉総合研究事業

この調査は日本国内における介助犬の普及を目指し、そのために活用する情報収集として行われます。アンケートのご回答は国内の介助犬の実態調査としての重要な資料となります。各団体間の比較や評価ではなく、あくまで学術的実態調査として行われるものですので、記述できるところにご回答頂きますようご協力のほどよろしくお願い申し上げます。質問項目等につきましてご不明な点がありましたら大阪府立大学農学部 太田光明(0722) 51-2997にご連絡いただきますようお願いいたします。

なお、12月初旬頃に調査の回収に大阪府立大学農学部太田光明助教授が伺いますので、よろしくお願い申し上げます。なお、その折りにお答え頂いても結構です。

介助犬の基礎的調査研究班班長
奈良県立医科大学教授 高柳 哲也

1. 育成組織について

組織・団体名

設立年月日

代表者名

回答者ご氏名

設立趣意を簡単にご明記下さい。

設立趣意書をご同封いただける場合はその旨ご明記下さい。

貴組織の特徴を簡単にお書き下さい。参照する資料があればご同封下さい。

現在訓練中の犬は何頭いますか。

() 頭

上記の訓練中の犬のうち、レシピエントがすでに決まっている犬は何頭ですか。

() 頭

訓練終了後の介助犬の実働予定地域はどこですか。未定の場合は未定に○を打って下さい。

- | | | |
|-------------|---------|----|
| 1) () 都道府県 | () 市群町 | 未定 |
| 2) () 都道府県 | () 市群町 | 未定 |
| 3) () 都道府県 | () 市群町 | 未定 |
| 4) () 都道府県 | () 市群町 | 未定 |
| 5) () 都道府県 | () 市群町 | 未定 |

記載するところが足りなければ裏面をご使用下さい。

介助犬として対象としている犬種に○をつけて下さい。

ラブラドル・レトリバー

ゴールデン・レトリバー

ジャーマン・シェパード

雑種

その他 ()

障害者の方ご自身が飼育している犬を対象にしていますか。

している

していない (理由)

3. 介助犬使用者 (レシピエント) について

貴組織が対象としている介助犬使用者 (レシピエント) の障害の種類は肢体不自由のみですか。

○を打って下さい。

はい

いいえ

いいえの場合、他にどのような障害を対象としているかをお書き下さい。

対象としている年齢には制限がありますか。あれば制限の内容をお書き下さい。

ある (歳以上、 歳未満)

ない

障害の種類、在住区域、環境、経済的背景等、貴組織が介助犬を処方する上で条件（例 他の動物を飼育していない、犬の世話を全て自分で出来る、庭のある家屋に住んでいる、等）があれば教えてください。

4. 育成及び処方体制について

介助犬使用者（レシピエント）選出から介助犬処方の流れを大まかで結構ですのでお書き下さい。

例 障害者からの希望-犬の飼育歴、障害の内容、介助犬に求めるもの等のアンケート調査-トレーナーによる面接調査-レシピエント登録-犬とのマッチング調査-合同訓練（1カ月）-処方後の家庭での訓練（1カ月）-継続指導（6カ月ごとに訪問）

医療との連携体制について

介助犬希望者の基礎疾患及び障害に関する情報はどのようにして把握しますか。主な方法をお答え下さい。

介助犬の譲渡条件について

介助犬の処方は譲渡ですか、貸与ですか。○を打って下さい。

譲渡（介助犬は組織から介助犬使用者（レシピエント）所有の犬となる）

貸与（介助犬は終生組織所有の犬として一定期間のみレシピエントに貸与される）

介助犬を処方する際の障害者の負担額及びその内容をお書き下さい。

円 代として

トレーナーまたは訓練委託先について

現在のトレーナーの数 名

トレーナーの方の最終学歴及び犬の訓練、障害者福祉または介助についてどのようなどころでどれくらいの期間学ばれたかをお書き下さい。

最終学歴 犬の訓練を学んだ場所 介助について学んだ場所

1)

2)

3)

4)

5)

記載するところが足りなければ裏面に記載して下さい。

訓練を他機関または組織に委託したことがありますか（委託していますか）。

はい

いいえ

はい の場合

委託する際、委託先をどのように選択していますか。

5. 犬の適性評価方法について

行動学的適性評価について

適性評価の流れを大まかにで結構ですので教えてください。

例 生後3-4カ月で子犬の適性評価として人なつこくて他の犬とも仲良くなれる犬を選出、生後6カ月で再評価、盲導犬としての訓練前にシャイな犬、集中力のない犬は落とす

6. 介助犬の認定及び訓練について

貴会の介助犬としての認定基準をお書き下さい。

訓練の流れをお書き下さい。各訓練開始の年齢と期間、訓練所で行うのか家庭で行うのかをないように入れて下さい。記載するところが足りなければ裏面をお使い下さい。

(例 生後1年までに子犬としての適性評価-ボランティア宅で一般的なしつけ-生後1年以降から訓練所で基礎訓練-1年半頃から介助犬としての訓練を1カ月、3-4カ月で公共の場での訓練に入る-終了後障害者とのマッチング-合同訓練を1カ月-2-3カ月間生活した上での最終評価-介助犬認定)

交通機関、店舗等における訓練を行う際、困ったことはありますか。

ない

ある (

)

9. 介助犬に関して行政機関ならびに社会に対して何か要望等があればお書き下さい。

10. 育成や訓練ならびに譲渡や組織運営に関して問題等がありましたら自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

この調査は厚生省の補助を受けて行うもので、将来の介助犬普及に活かされるものであります。今後とも障害者の自立を支えるべく介助犬育成・普及の活動にご尽力下さいますようお願い申し上げます。

調査結果は厚生省障害保健福祉総合事業報告書として国会図書館にて保管されます。

調 査 結 果

(25 ページ)

介助犬アンケート結果

番号	1	2
介助犬育成組織名	多摩介助福祉犬協会	日本パートナードッグ協会
代表者氏名	中島柏樹 運営委員長	未定 粟屋雅明（事務局長）
郵便番号	183-0021	166-0003
住所	東京都府中市片町2-14-1	東京都杉並区高円寺南3-59-17-402
電話	0423-64-2778	03-3313-8684
ファックス		03-3313-8596
回答者氏名	中島柏樹	粟屋雅明
1. 育成組織について		
設立年月日	1995.4.1	1990年9月（パートナードッグを育てる会）
設立趣意	障害者にラブラドル犬を提供する	
組織の特徴	（資料なし） 法人化されていない 府中市に登録（会員数約50名、実質的には約5名） 犬が好きで始めた 優秀血統作業犬を無償で提供する イギリスから直輸入できる数少ない組織	資料あり 役員会（8名） 一頭でも多くの介助犬を出す 「介助犬」のアピール
2. 介助犬について		
過去に育成した介助犬	2頭	
犬種	ラブラドル・レトリバー	ラブラドル・レトリバー（ブルース）
実働年数	1996年から現在	
使用者の年齢	26歳	
使用者の性別	女性	
基礎疾患名	脳炎後遺症	
障害名	下肢麻痺	
在住区域	愛媛県松山市	
犬種	ラブラドル・レトリバー	ラブラドル・レトリバー（グレーデル）
実働年数	1996年から現在	
使用者の年齢	28歳	
使用者の性別	男性	
基礎疾患名	交通事故	
障害名	下肢麻痺	
在住区域	神奈川県愛甲郡	
犬種		
実働年数		
使用者の年齢		
使用者の性別		
基礎疾患名		

介助犬アンケート結果

障害名 在住区域		
犬種 実働年数 使用者の年齢 使用者の性別 基礎疾患名 障害名 在住区域		
現在訓練中の犬は何頭	0	0 (新聞には7頭とあったが)
訓練中の犬のうち、レスピエントが決まっている犬は何頭		
訓練終了後の介助犬の実働予定地		
介助犬として対象にしている犬種	ラブラドル・レトリバー	決めていない
障害者自身が飼育している犬を対象にしているか？	希望があれば	
3. 介助犬使用者について		障害者からの問い合わせはあるが
障害の種類は肢体不自由のみですか？	いいえ 精神障害を含むすべての障害	
障害者の年齢に制限はありますか？	ない	
障害の種類、在住区域、環境、経済的背景などの条件	ケースバイケースである 必要とする社会資源が整備されていれば、それで十分である	具体的事例なし
4. 育成および処方体制		
介助犬使用者選出から介助犬処方の流れ	障害者（またはその代理人）から、取得希望があればよい	検討中
医療との連携体制について 介助犬希望者の基礎疾患および障害に関する情報	障害者本人またはその代理人から	検討中

介助犬アンケート結果

介助犬の譲渡条件について 譲渡ですか、貸与ですか	譲渡	未定
障害者の負担額およびその内容	無償	
トレーナーまたは訓練委託先について 現在のトレーナーの数	0	(警察犬、家庭犬などトレーナーのプロにボランティアとして依頼) 山形在住のトレーナーなど (自分でやりたいと申し出るトレーナーはいる)
トレーナーの最終学歴 犬の訓練を学んだ場所 介助について学んだ場所		
トレーナーの最終学歴 犬の訓練を学んだ場所 介助について学んだ場所		
訓練を他機関または組織に委託したことがありますか	いいえ	
5. 犬の適性評価方法について 行動学的適性評価について	従順であることが第一条件であるが、他は使用者の好みによる	トレーナーなどいろいろな人と話合い、今後必要に応じて検討する
6. 介助犬の認定および訓練について 貴会の介助犬としての認定基準	利用者が満足できること	未定 認定基準は障害者のニーズに合わせる
訓練の流れ 各訓練開始の年齢と期間、訓練所か家庭か	お勧めとしては、主として利用者が幼犬から飼育し訓練する 不十分な所は家族等が補う	検討中

介助犬アンケート結果

交通機関、店舗等における訓練を行う際、困ったことは	ある 利用させてもらえないこと	
7. 介助犬使用者の社会参加状況について 貴会が訓練された介助犬の使用者は積極的に社会参加しているか	どちらともいえない	
介助犬使用者から介助犬と共に外出する上で問題があったことを聞いているか	いいえ	
貴会は介助犬使用者に介助犬を伴った社会参加に対してどのような教育を行っているか	求められればしないことはないが、押し付けはしない	
8. 育成および組織運営における問題点について 育成および組織運営にかかる予算に公的補助を受けていますか	いいえ	
9. 介助犬に関して行政機関ならびに社会に対しての要望	社会福祉法人となれるよう指導し、専従者を確保できるように助成金が必要	公的認定の必要性 現実に介助犬が少ないのが問題
10. 育成や訓練ならびに譲渡や組織運営に関して問題等があれば	日本の障害者は権利を主張しない あきらめている 総合的に社会資本・資源を整備して、バリアフリーとノーマリ ティーを達成しなければ、希望をもつだけ空しい	
11. その他	中途障害者が特に介助犬を必要としている 利用者のニーズに合わせる（障害者がペットとして飼うことも可）	犬を育てるのが先（育成に一年ぐらいかかる） 交通機関など将来的に盲導犬と同じ扱いを受けるべきである

介助犬アンケート結果

盲導犬と異なり、障害者にはいろいろな人がいる
犬の世話が大変（障害者の周りにボランティアが必要）

認定を受けた団体によって育成すべきである
トレーナーの資格認定が必要である
犬の能力テストが必要である

介助犬アンケート結果

番号	3	4
介助犬育成組織名	いわて介助犬を育てる会	サービズドッグ・ジャパン
代表者氏名	武田佳子	朴木敏明
郵便番号	020-0874	444-0842
住所	盛岡市南大通2-1-2	愛知県岡崎市戸崎元町13-7
電話	019-653-0667	0564-52-9126
ファックス		0564-52-9126
回答者氏名	武田佳子と新屋一巳	朴木敏明
1. 育成組織について		
設立年月日	1997年7月	1997年3月
設立趣意		
組織の特徴	資料なし 武田佳子さん一人で運営している会（組織）	資料あり
2. 介助犬について		
過去に育成した介助犬	ナナ（♀、2歳）	なし
犬種	ラブラドル・レトリバー（ナナ）	
実働年数	愛玩犬として約2年	
使用者の年齢	15歳	
使用者の性別	男性	
基礎疾患名	脳性マヒ	
障害名		
在住区域	盛岡市 (犬の面倒をみることに、僕がいなくてはとの気持ち)	
犬種		
実働年数		
使用者の年齢		
使用者の性別		
基礎疾患名		
障害名		
在住区域		

介助犬アンケート結果

現在訓練中の犬は何頭	0	0
訓練中の犬のうち、レシピエントが決まっている犬は何頭		
訓練終了後の介助犬の実働予定地		
介助犬として対象にしている犬種		犬種を問わず（介助犬としての適性、レシピエントとの相性）
障害者自身が飼育している犬を対象にしているか？		上記の基準
3. 介助犬使用者について		
障害の種類は肢体不自由のみですか？		はい
障害者の年齢に制限はありますか？		ない
障害の種類、在住区域、環境、経済的背景などの条件		人と犬との信頼関係を最優先する 家族の一員として終生共に暮らせる方を対象 人と犬との絆を深める互いの努力の過程から育まれる愛と感動 それ自体が何ものにも代えがたい尊い心の支えとなり、生きる 勇気を得る原動力となる。従って、犬の幸せを考え、家庭環境 も、物理的、経済的、そして精神面の三位一体から検討する
4. 育成および処方体制		
介助犬使用者選出から介助犬処方の流れ		WINDS ASSOCIATION（Wind of Dog's Support：愛すべき 犬たちをサポートする新しい風）に依頼している ALF&MAX Dog's Homeの白井トレーナーに訓練を依頼し、 システムは全てトレーナーの指導による
医療との連携体制について 介助犬希望者の基礎疾患および障害に関する情報		書類を提出して頂き、病名、進行状況等、主治医と連絡し検討 担当獣医師とも連絡